

「協働的な学びに関する調査」結果の報告

-実践校と比較対象校の結果-

調査の目的

実践校と比較対象校の間で、様々な生徒と協働して学ぶことに対する意識に違いがあるのか明らかにする。

目的

専門職支援員が介入している実践校と、介入をしていない比較対象校の間で、協働して学ぶことに対する意識に違いがあるのか明らかにする。

意識に違いがあるのかどうか？

実践校

比較対象校

方法

実践校と比較対象校の生徒を対象に「協働的な学びに関するアンケート」を実施

明らかになること

実践校と比較対象校間の協働的な学びに対する意識の違いが明らかとなる。

(例えば、意識の違いとして…)
実践校は比較対象校よりも、「友達と一緒に学ぶことが楽しい」と感じている生徒が多い等

実践校

比較対象校

比較対象校 調査方法

■調査人数：実践校（中学生）：240名 比較対象校（中学生）：280名

■調査課題：協働的な学びに関する調査（岡田，2014）

- ・様々な生徒と共に学ぶことに対する意識や動機づけについては、4つ側面（「内的動機づけ」「同一化調整」「取り入れの調整」「外的調整」）から評価した。

※4つの側面については本資料のP7～10に説明を記載している。

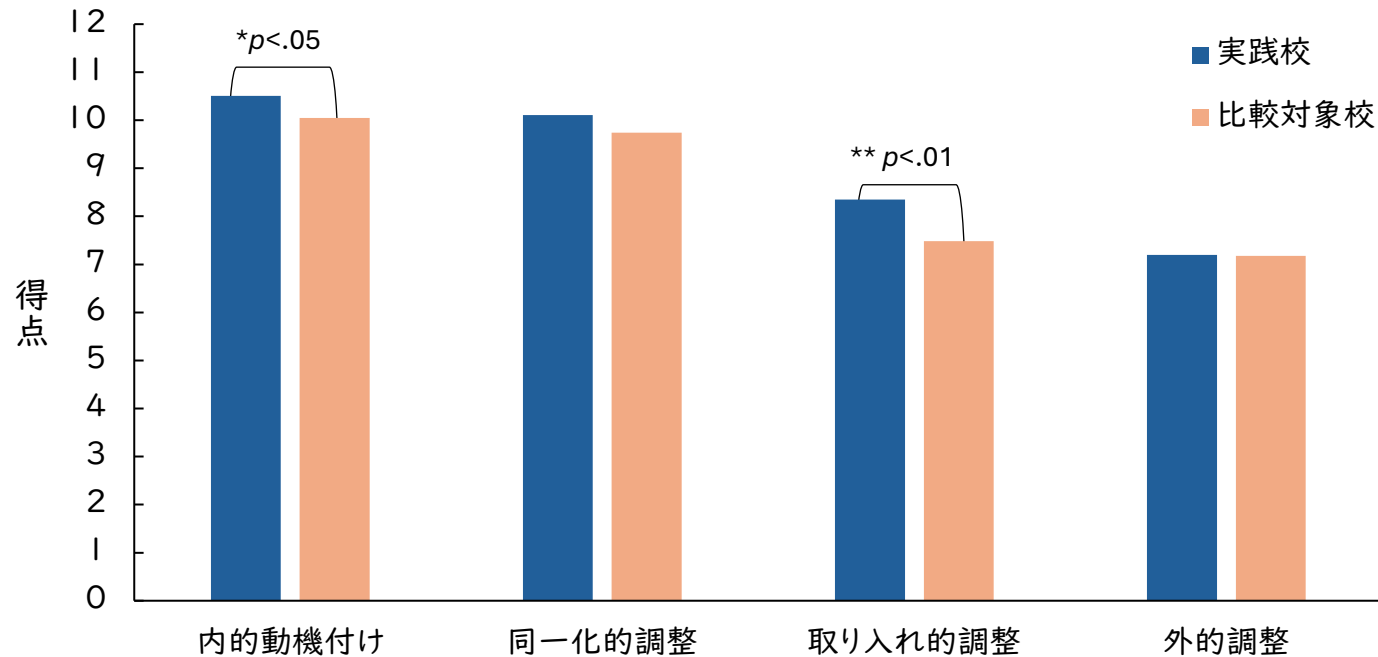
- ・全12項目の質問に対して「1：まったくあてはまらない」、「2：あてはまらない」「3：あてはまる」「4：よくあてはまる」の4つから該当するものを一つ選択する形式で回答を求めた。

■実施方法：アンケートフォーム（Microsoft Forms）から回答

■有効回答数：実践校：215名 比較対象校：263名

実践校と比較対象校の結果の比較

- ・縦軸は内発的動機づけ、同一化調整、取り入れ的調整、外的調整のそれぞれに含まれる質問項目の合計得点の平均値を示している。
- ・実践校と比較対象校の平均値に統計的な差を認めた部分にアスタリスク(*)を付している。



仲間との協働的なかわりに興味や楽しさを見出し、仲間と学ぶこと自体を目的として学ぼうとすること

仲間と協働的に学ぶことに個人的な価値や重要性を見出し、積極的にかかわろうとすること。

自分の自尊心を維持するためや、心配や不安を低減するなどの理由から仲間と協働的に学ぼうとすること。

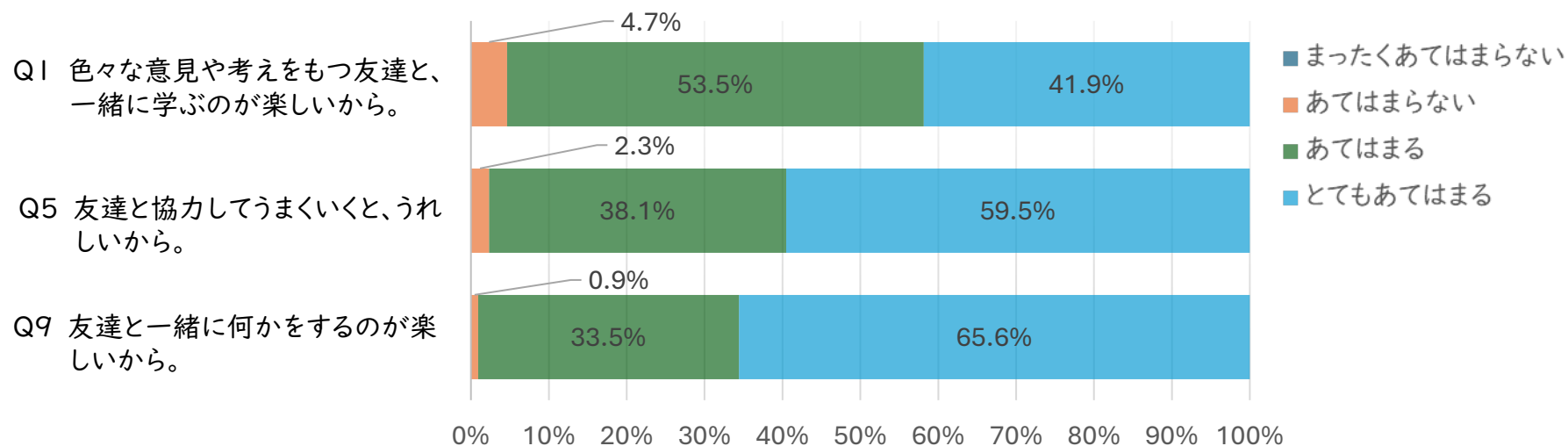
他者からのほたらきかけによって仲間と協働的に学ぼうとすること。

- ・実践校は比較対象校よりも「内的動機付け」「取り入れ的調整」の平均得点が高かった。
- ・以上の結果から、**実践校は仲間との協働的なかわりに興味や楽しさを見出し、仲間と学ぶこと自体に意欲を感じたり、自尊心の維持や不安の軽減のために友達と一緒に学ぶことを選択する生徒が比較対象校よりも多いことが明らかとなった。**

実践校の調査結果の詳細

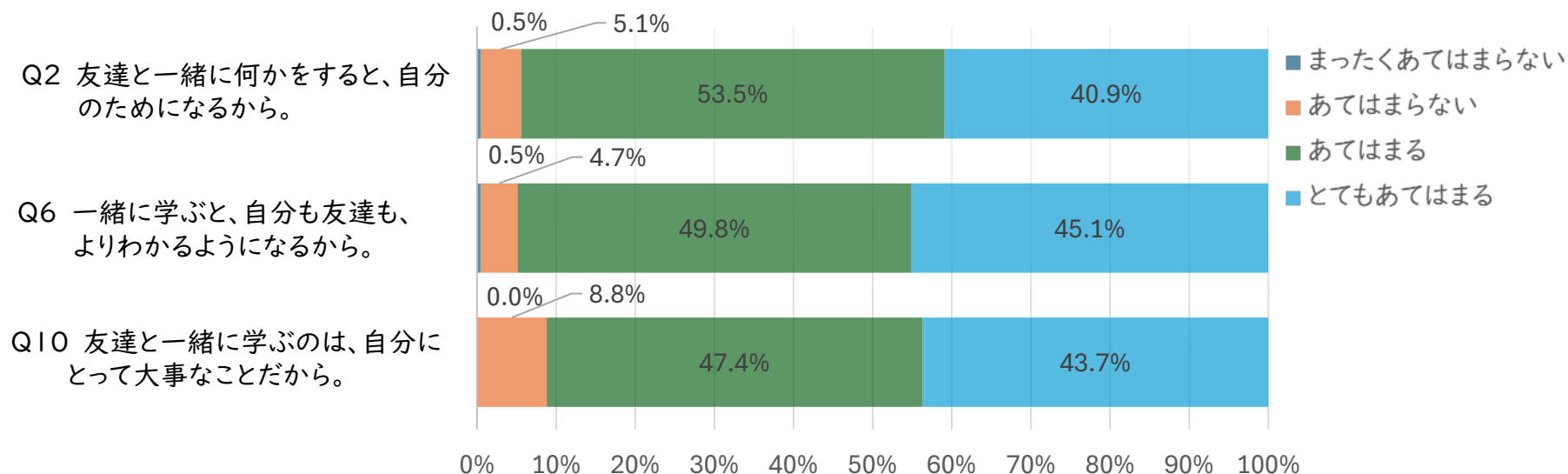
実践校 「内発的動機づけ」に関する質問項目の結果

仲間との協働的なかわりに興味や楽しさを見出し、仲間と学ぶこと自体を目的として学ぼうとすること



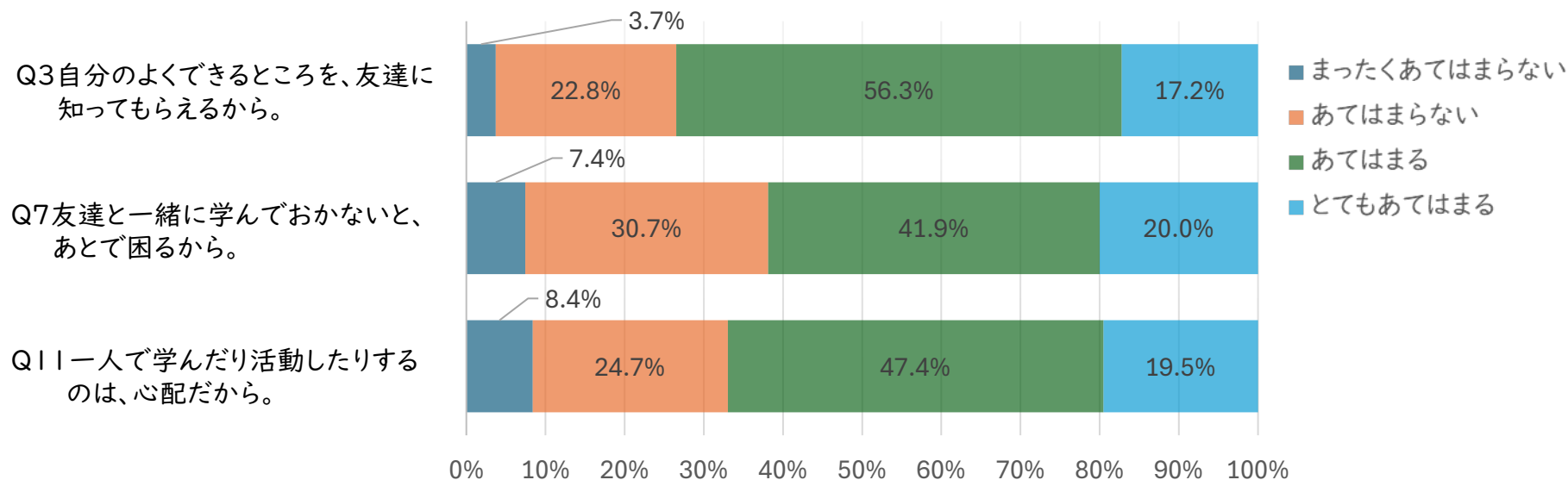
90%以上の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。

仲間と協働的に学ぶことに個人的な価値や重要性を見出し、積極的にかかわろうとすること。



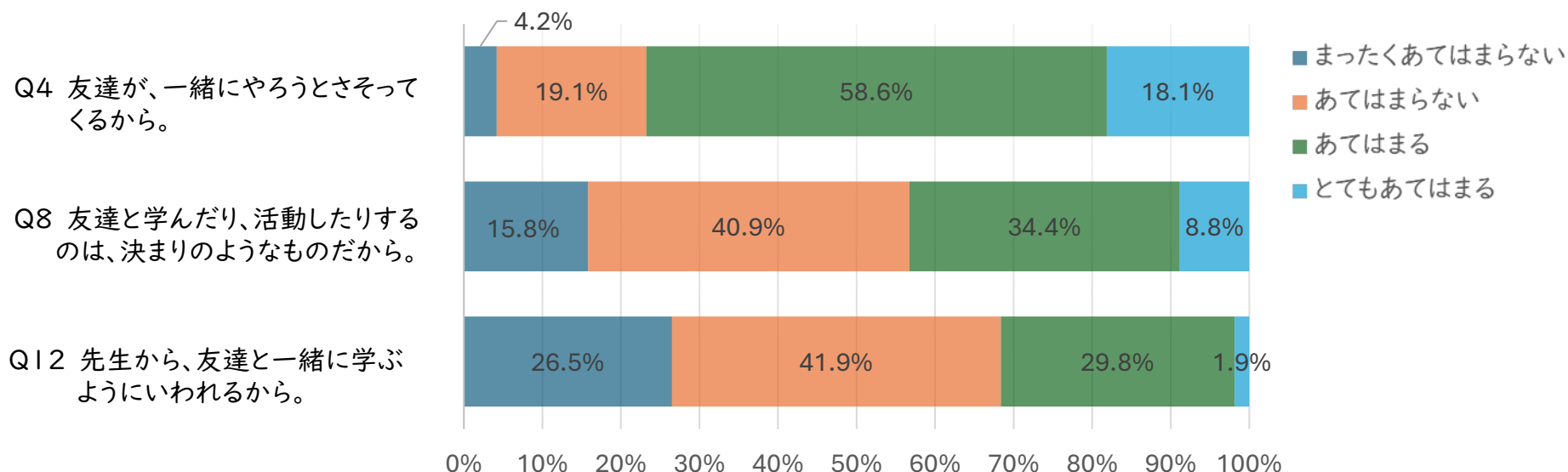
90%以上の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。

自分の自尊心を維持するためや、心配や不安を低減するなどの理由から仲間と協働的に学ぼうとすること。



約60～70%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。

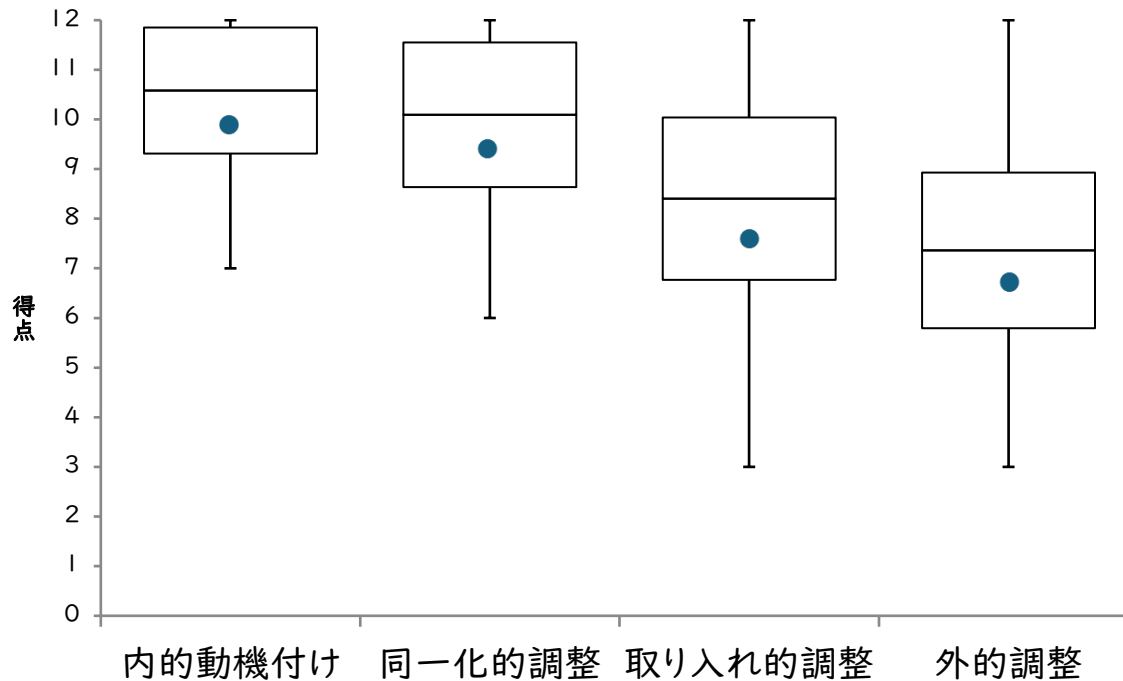
他者からのはたらきかけによって仲間と協働的に学ぼうとすること。



Q4については約70%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択しているが、Q8,12については約30~40%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。先生やルールなどの外的な要因よりも、友達からの働きかけにより協働的に学ぼうとする生徒が多い傾向にある。

実践校の結果 先行研究との比較

- ・縦軸は内発的動機づけ、同一化調整、取り入れ的調整、外的調整のそれぞれに含まれる質問項目の合計得点を示している。
- ・箱の中央の線は平均得点、箱の上下の線は1標準偏差を示す。縦線の両端は最大値、最小値を示す。
- ・図中の青丸(●)は、岡田(2014)の6年生の平均値を示す。



・すべての項目において、岡田(2014)の平均値よりも、本調査の平均値のほうが高かった。

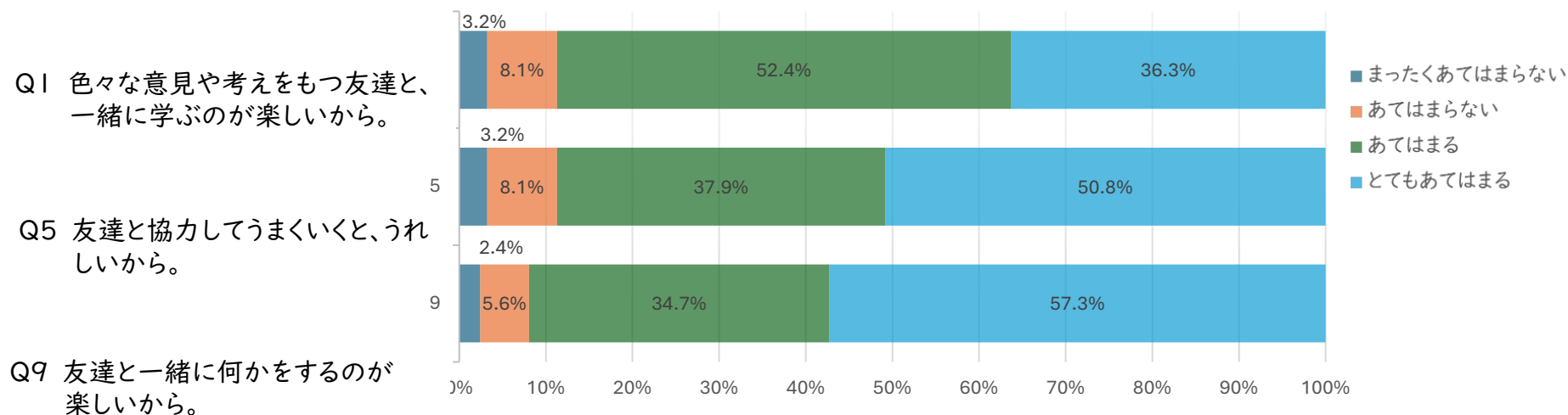
・岡田(2014)、Otis, Grouzet, & Pelletier(2005)によると、「内発的動機づけ」や「同一化的調整」、「取り入れ的調整」は、6年生時から中学生にかけて得点が低下することが指摘されている。しかし、本調者の対象生徒には、6年生の平均値よりも高い得点を示した。この結果から、仲間とのかかわりが楽しく重要なことであると感じている者や、自分のことを仲間知ってもらいたいと感じる者が多いことを指摘できる。また、「外的調整」の結果から友達からの働きかけにより、仲間との関わりをもつ者も一定数いることが示唆される。

比較対象校の調査結果の詳細

比較対象校

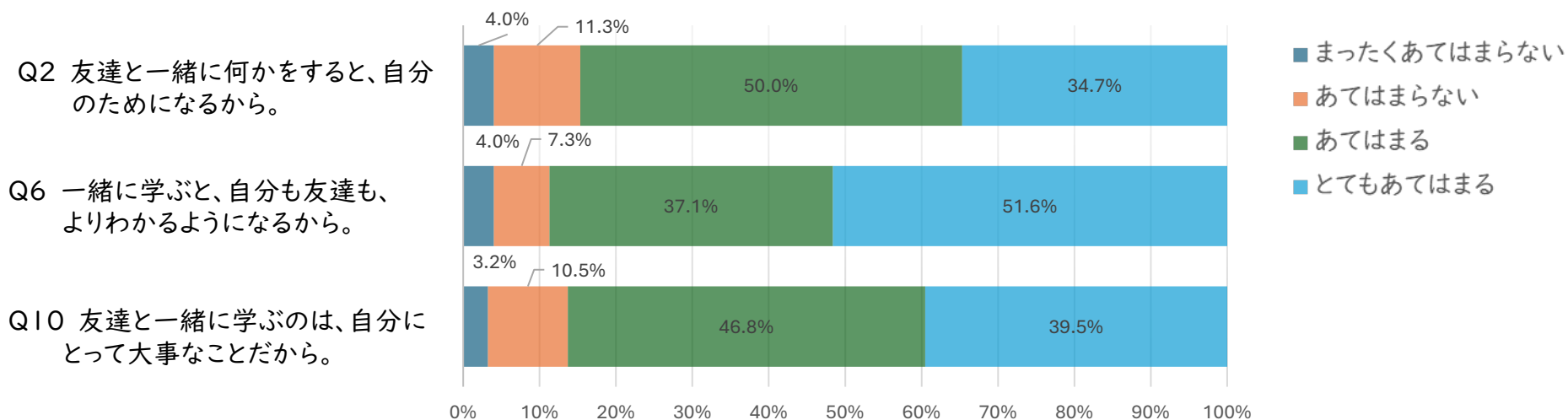
「内発的動機づけ」に関する質問項目の結果

仲間との協同的なかわりに興味や楽しさを見出し、仲間と学ぶこと自体を目的として学ぼうとすること



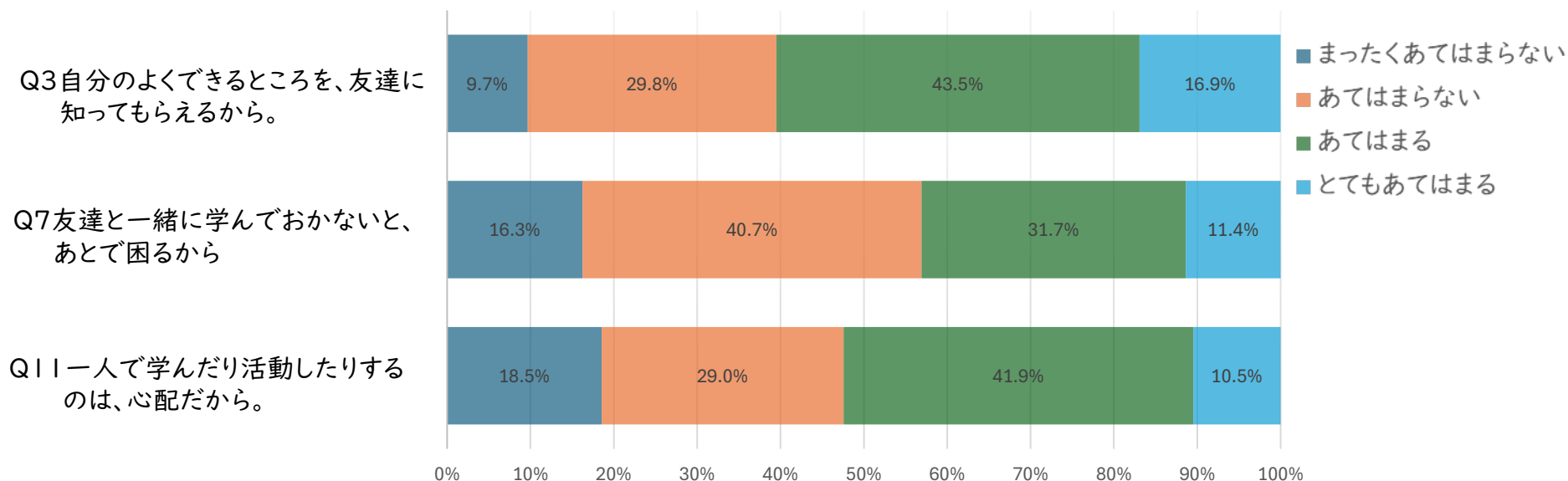
88～91%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。

仲間と協働的に学ぶことに個人的な価値や重要性を見出し、積極的にかかわろうとすること。



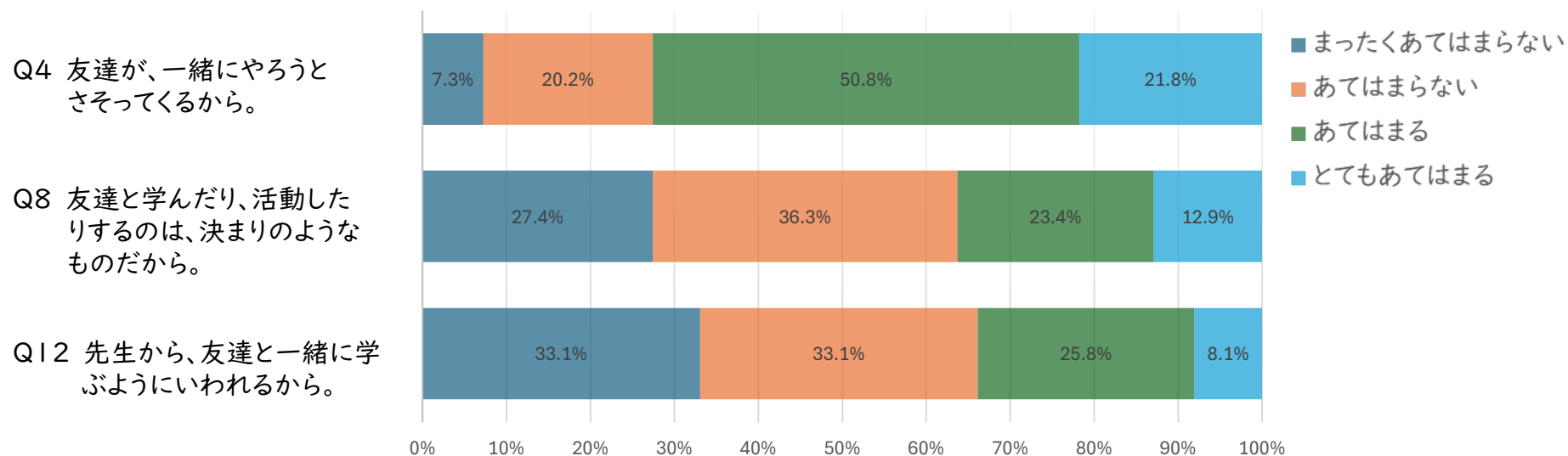
84～88%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。

自分の自尊心を維持するためや、心配や不安を低減するなどの理由から仲間と協働的に学ぼうとすること。



Q3、Q11は、約50～60%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。
Q7は、半数以上の生徒が「まったくあてはまらない」「あてはまらない」を選択している。

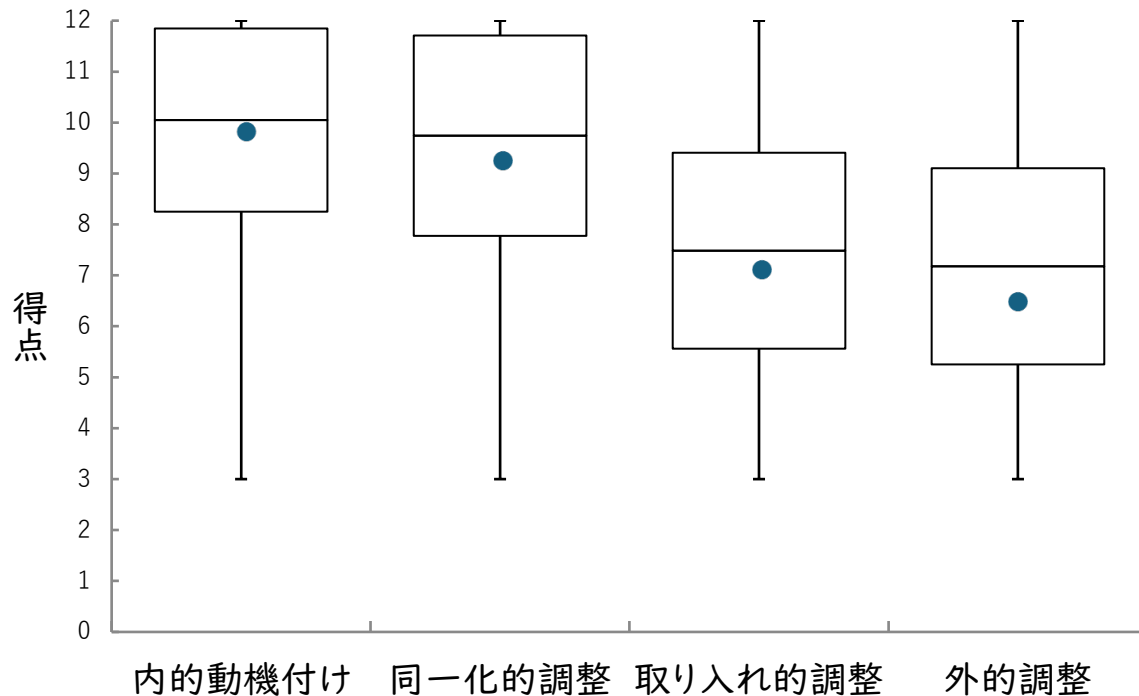
他者からのほたらきかけによって仲間と協同的に学ぼうとすること。



Q4については約70%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択しているが、Q8,12については約30%の生徒が「あてはまる」「とてもあてはまる」を選択している。先生やルールなどの外的な要因よりも、友達からの働きかけにより協働的に学ぼうとする生徒が多い傾向にある。

比較対象校の結果 先行研究との比較

- ・縦軸は内発的動機づけ、同一化調整、取り入れ的調整、外的調整のそれぞれに含まれる質問項目の合計得点を示している。
- ・箱の中央の線は平均得点、箱の上下の線は1標準偏差を示す。縦線の両端は最大値、最小値を示す。
- ・図中の青丸(●)は、岡田(2014)の6年生の平均値を示す。



- ・すべての項目において、岡田(2014)の平均値よりも、比較対象校の平均値のほうが高かった。
- ・先行研究では、「内発的動機づけ」や「同一化的調整」、「取り入れ的調整」は、6年生時から中学生にかけて得点が低下することが指摘されている。しかし、比較対象校の結果は、6年生の平均値よりも高い得点を示した。この結果は、実践校と同様の傾向を示している。